

南アルプス市立八田小学校 後期自己評価書

令和4年1月7日(金)作成

学校長：笹本 学

記述者：半田 智徳

【小中一貫校八田小中学校の教育】

1. 教育目標 「ふるさとの未来(あす)を創造する児童生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
2. 『八田 Children first』
「明るい 伸びゆく 夢みる」児童から「未来を展く 理想は高く 世界をめざす」生徒へ
小中一貫校八田小中学校の教育は、【八田 Children first】をコンセプトに『1. 学習をつなぐ
2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし、義務教育9年間で「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組みます。
3. めざす児童生徒像
 - ふるさとを大切に思う児童生徒
 - 変化の激しい先行き不透明な社会に対応できる主体性のある児童生徒
 - 自律性・豊かな人間性を持ち、たくましく生きていくための健康、体力を持った児童生徒

【学校教育目標】

「豊かな心を持ち かしこく たくましい子どもの育成」

【めざす子ども像】

- 〔なかよく〕 思いやりの心を持ち 礼儀正しく行動する子ども
- 〔かしこく〕 自ら学び 友と対話し 深く考える子ども
- 〔たくましく〕 よく食べ よく運動し 命を大切にする子ども

【めざす学校像】

- (1) 仲よく助け合い、笑顔の集う学校
- (2) 学ぶ楽しさにあふれる学校
- (3) 整然とした、美しい学校
- (4) 安全で安心な居場所としての学校
- (5) ふるさと八田を誇れる学校

【めざす教師像】

- 子どもとのふれあいを大切にし、子どもとともに成長する教師
- 自己を高め、創意工夫して実践する教師
- 学ぶ姿勢をもち、互いに磨き合う教師
- 目標に向かって協働し合う教師
- 心身ともに健康で、児童、保護者、地域、同僚から信頼される教師

【特色ある教育活動】

- (1) 小笠原流礼法・立腰教育 心と体のバランスのとれた子ども
- (2) ふるさと教育 文化財課との連携や地域の人材を活用し、ふるさと八田を愛し、ふるさと八田に誇りをもつ子ども
- (3) 川柳 言葉を大切にし、感性を豊かにする子ども
- (4) 学習発表会(清流祭) 音楽を通して心をひとつにし、互いの絆を深めようとする子ども

【本年度の努力点】

- (1) 義務教育9年間を見通した教育課程をもとに、小中一貫教育を推進する。
- (2) 学びの質を高める授業づくりを推進し、学習意欲の向上と確かな学力の育成を図る。
- (3) 豊かな心を育成する道徳教育の充実を図る。
- (4) いじめを許さない集団づくりと不登校児童が生じない環境づくりに努める。
- (5) 命、体力、健康・安全、食育に関する指導の充実に努める。
- (6) 指導と支援にもとづく特別支援教育を推進し、その充実を図る。

I 全体評価（割合を出す際の処理の関係で、合計が100%にならない項目があります。）

一昨年度南アルプス市より「小中一貫校八田小中学校」に制定され、自己評価の項目も中学校と同一のものとした。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症による影響はあったものの、徐々に平常を取り戻し、各種行事や学習も新たな形ではあるが、ほぼ予定どおり実施することができた。コロナの影響が今後どんな形で児童生徒に出てくるかは未知数であるが、今できることに全力で取り組んでいくことが大切である。

1. 教職員の自己評価（1名：4～5ポイントに相当）（資料1 資料1-1を参照）

(1) 後期の結果（資料1・1-2参照）

①A・B（肯定的評価）の合計が100%の項目 10項目

「1：児童生徒は楽しく学校生活を送っていると思いますか」

「3：児童生徒の安全が確保されるように防災教育・防犯教育等に努めていますか」

「6：八田小中スタンダード（教科別年間指導計画）や八田小中学習スタンダード（学習スキル・学習プロセス・学習モデル・学習ツール・学習チーム・学習ルール）を意識した、わかる授業づくりに努めていますか」

「9：児童生徒とのコミュニケーションをとることで、児童生徒理解に努めていますか」

「10：自分からあいさつが行えるよう、指導していますか。」

「11：いじめなどの諸問題に対して、「未然防止，早期発見，早期対応」を心掛け、楽しい学級・学年・学校づくりに努めていますか」

「13：外部関係機関と連携し、児童生徒の健全育成に努めていますか。（特別支援教育も含める。）」

「15：地域の人材や施設を利用するなど、地域の教育力を生かし、地域に開かれた学校となるように努めていますか。（学校応援団や子供を守る会など）」

「16：合唱活動や運動会（体育祭）等の特色ある学校づくりにつながる行事が充実するように努めていますか。」

「17：小笠原流礼法や立腰教育を意識した、心と体のバランスのとれた児童生徒の育成に努めていますか」

②A・B（肯定的評価）の合計が90%未満の項目 2項目

「2：児童・生徒は小中一貫校の教育目標「ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成」の達成に近づくため、各自の目標を持って学校生活を送っていると思いますか」（88%）

「5：ライフ・ワーク・バランスを意識した業務改善を行っていますか。」（69%）

③D（否定的評価）がついた項目 1項目

「5：ライフ・ワーク・バランスを意識した業務改善を行っていますか。」（69%）

④前期・昨年度後期との比較

前期・昨年度後期と比較（資料1-2参照）すると、全体的な傾向として大きな違いはないものの、ほぼ満足できる結果となっている。特に、前期に比べ肯定的評価が100%の項目が増えた（6→10）こと、90%未満の項目（4→2）や否定的評価の項目（2→1）になっていることは評価したい。コロナの状況にも慣れ、「何とか工夫して日常を取り戻そう」と試行錯誤を繰り返した結果ではないだろうか。ただ、相変わらず、「小中一貫」「働き方」に課題があるので、引き続き取り組んでいきたいと思う。

(2) 今後の課題（自由記述より抜粋）

- ・挨拶ができるようになってほしい。
- ・規律をしっかり守り、そのうえで学校生活を楽しめる児童が増えた。
- ・児童アンケートで「学校が楽しくない」という子どもが1人いた。理由は勉強が嫌だという。勉強きらいがないような、教材研究をしっかりし楽しい授業にしたい。
- ・小中一貫の目標について、もっと明確に示すと良いと思う。
- ・今年度はじまった小中一貫推進委員会で具体的にしていきたい。
- ・英語や音楽では、高学年が中学校の先生から指導していただける機会があります。
- ・平均して40時間前後は時間外勤務になってしまう。

- ・働き方改革等ありますが、実際の業務内容が減ったり効率が良くなったりしているわけではないので、なかなか難しいです。自分の要領が悪いこともあると思いますが…。
- ・自主学習などの家庭学習が身に付いている。
- ・児童の負担，家庭環境を考慮しながら，量より質を高めたい。
- ・朝学や休み時間にタブレットを使っている児童が多い。
- ・スマホや一般的な情報モラル教育しか指導をしてきていない状況で一人一台端末が始まりました。今後、持ち帰り学習が始まったときに、して良いこと悪いことのルールづくり等が必要になってくると思います。
(持ち帰ったタブレットがどのように活用されるかは、児童のモラルによるため)
- ・挨拶が行えるように指導しているが、なかなか成果を感じられない。
- ・自分からあいさつしてくる子どもが増えてきていると思う。
- ・あいさつについて児童会での取り組みが効果的である。
- ・小笠原流礼法や児童会の取り組み等があるが、日常生活の中で浸透させきれていない。
- ・朝玄関であいさつをしています、子どもたちからあいさつがなかなか返ってきません。また、廊下でお客さんと会った時にも、あいさつできない子どもが多いです。自分からあいさつをおこなうことは、普段から指導してもなかなか難しいのかなと感じています。
- ・「いじめは許さない」ことを日ごろから伝えた。特に、相手が嫌がれば「いじめだよ」と伝えた。
- ・登下校時において、見守る会の方には細かい配慮をしていただき本当に感謝している。
- ・朝の1分間の立腰タイムは教師自身も落ちついた心で過ごすことができているです。
- ・児童会の「無言清掃」の取り組みが始まってから、子どもたちが以前より意識して「無言清掃」ができていると思います。

2. 学校生活に関する児童アンケート（約3名：1ポイントの相当）

(1) 後期の結果（資料2・2-2参照）

① A・B（肯定的評価）の合計が90%以上の項目

- 「1：学校が楽しいですか」（92%）
- 「2：学校の授業がわかりますか」（92%）
- 「8：いろいろ話せる，友だちがいますか」（94%）
- 「9：相手の気持ちを考えて，行動していますか」（92%）
- 「11：先生や友だちの話をしっかり聞いていますか」（98%）
- 「12：時間を守って行動していますか」（98%）
- 「13：学校のきまりを守っていますか」（96%）
- 「14：給食当番やそうじをしっかりとしていますか」（99%）
- 「15：じぶんからあいさつをしていますか」（90%）
- 「16：朝ごはんを食べて，登校していますか」（95%）

② A・B（肯定的評価）の合計が80%未満の項目

- 「3：授業中，質問や意見を言いますか」（64%）
- 「4：背筋を伸ばし，良い姿勢で学習をしていますか」（75%）
- 「6：宿題のほかにも家庭学習（塾や家庭教師をのぞく）をしていますか」（53%）
- 「7：家で，本を読みますか（宿題をのぞく）」（58%）
- 「10：困ったことや心配なことがあったら，先生に言いますか」（71%）
- 「18：家の人に学校のようすを話していますか」（75%）

③ 前期・昨年度後期との比較

前期・昨年度後期と比較（資料2-2参照）すると、全体的な傾向として大きな違いはなく、ほぼ同じような結果で、おおむね満足できる状態である。ただ、肯定的評価が80%未満の6項目について少しずつ対策はしているものの、なかなか改善傾向がみられず課題である。

3. 保護者アンケート（約3名：1ポイントに相当）

（1）後期の結果（資料3・3-2参照）

①A・B（肯定的評価）の合計が90%以上の項目

「1：学校は、お子さんにとって、楽しいところだと思いますか」（97%）

「2：学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか」（90%）

「3：学校は、いじめの未然防止や子どもたちの間違った行動などに対して、指導していると思いますか」（93%）

「4：学校には教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか」（96%）

「6：学校（学年・学級）だよりやホームページから教育活動の様子を知ることができますか」（95%）

「7：授業参観や学校行事などは、子どもの様子をよく知る機会となっていますか」（95%）

「8：学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思いますか」（93%）

「9：お子さんは、授業の内容が分かっていると思いますか」（91%）

「10：お子さんは、宿題（課題）を忘れずにしていますか」（90%）

「12：お子さんの仲の良い友達を知っていますか」（96%）

②A・B（肯定的評価）の合計が80%未満の項目

「11：お子さんは、宿題の他にも家庭学習（塾や家庭教師は、除く）をしていますか」（61%）

③携帯電話の項目

「お子さんに携帯電話を持たせていますか」 はい…47%（143人） いいえ…53%（161人）

「携帯電話を持たせている場合、お子さんと使い方についてルールを決めていますか」

はい…91%（138人） いいえ…9%（13人）

④昨年度後期との比較

昨年度同様、おおむね満足できる状態であり、大変ありがたく思っている。中でも、「相談できる先生」「保護者・地域住民の声に耳を傾けている」の項目で、肯定的評価が90%以上になったことは非常に喜ばしいことである。ただ、「家庭学習」の評価が低いことや時代の流れではあるが携帯・スマホの所持率がほぼ倍増していることは、注視し対応していく必要がある。

（2）備考欄への記述（抜粋）

- ・最近地震が多く、子ども達が登校している時に、災害などがあつたときに心配になります。無事なのかを知る方法がいまいちわかりません。無事なのかを知る方法が知りたいです。
- ・子供からの自由な要望書などいつでも子供の声を聞けるようにして、双方ともに色々と改善していったほしいとおもいます。
- ・小中一貫教育を意識して中学校の先生が授業に来てくださるのはありがたいが、英語嫌いを作らないような授業をお願いしたい。英語の授業参観もしてほしいです。
- ・授業参観等の父兄の参加型の行事が多すぎて全て参加という訳に行きません。親の都合ということで子供に寂しい思いをさせているかなと思います。各学期に1回程度にしてほしいと思います。授業参観、学習発表会、清流祭のような発表会、個別懇談、等です。
- ・学童で宿題を済ませる事が多いのですが、全て終わらず家で残りをやると疲れていて宿題をしながら寝てしまう事もしばしばあります。私の仕事の帰りが遅いのでどうしても帰宅してからやるが多すぎてしまい、宿題や次の日の準備に追われているような気がして、きちんと身になっているのか、親としても無理に起こして宿題をやらせることが可哀想になることもあります。少し宿題の量が多いなと思う時もあります。今はまだ勉強をすることが楽しいと思っているようなのでいいのですがいつか嫌になるのではないかと心配になります。なのでなるべく楽しいと思えるような授業や宿題を今後もして頂けると有り難いです。
- ・いつもきめ細やかにご指導してくださり、ありがとうございます。家庭学習ノートなどへ丁寧なコメントを書いていただいている、お忙しいのに一人ひとりの子供に合わせた声掛けをしていただき、頭が下がる思いです。今度ともよろしく願いいたします。

・こういう勉強のしかたはどうか、と具体的にアドバイスしていただけたので とても参考になりました。遅刻、休みの連絡をアプリでできるといいな、と思いました。ご検討おねがいします。

II まとめ(成果と課題)。

「教職員自己評価」「生徒アンケート」「保護者アンケート」とも前回同様肯定的評価の割合が高く、おおむね満足できる状況にあると言える。ただ、そのことに満足することなく、そこから見えてくる課題や改善点を探っていくことがより良い「八田小学校」を作り上げていくうえで大事なことだと考える。

新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、少しずつ「日常」を取り戻しつつあり、児童・保護者・教職員が力を合わせ、「新しい」学校生活を作りつつある。いろいろなことを前向きにとらえ、この危機を乗り切っていきたいと考えている。このアンケートの結果をもとに改善の糸口を見つけ出していきたい。

(1) 小中一貫教育について(「コミュニティ・スクール(CS)」)

来年度から「コミュニティ・スクール(CS)」として、八田小中学校は新たなステージに進むことになっている。学校だよりやホームページなどの積極的な広報活動の効果もあり、「小中一貫教育」に関する保護者の認知度が上がってきてはいる。が、コロナ禍の影響もあり、具体的な活動が思うようにできず、もどかしい現状がある。

まだまだ、コロナ禍の状況で小中連携の機会が減っているなどマイナス要素がたくさんあることは否めないが、実践をとおして「強み」や「良さ」を感じ共有していく必要がある。本年度立ち上げた「小中一貫教育研究会」を切り口に何よりもまず、教職員自身が取組を進め実感することが大事だと考える。その上で、児童生徒・保護者に還元し、地域に広めていきたい。そうすることが、「コミュニティ・スクール(CS)」の充実に繋がっていくと考えられる。

(2) 家庭学習(宿題・塾・家庭教師等を除く)について

家庭学習の肯定的評価の推移は、児童(64%→53%)保護者(60%→61%)となっている。「計画的な家庭学習の手立てをしていますか」の問いに対して教職員の肯定的評価の変遷は、96%→96%となっている。児童生徒・保護者の60%台前後の肯定的評価はそれほど高いとは言えないかもしれないが、宿題以外の学習に取り組んでいる割合とするとまずまずなのかもしれない。ただ、教職員にとっては、家庭学習パワーアップ週間の取組等を見ていると、「手立ての工夫」の余地があると感じている。研究だよりで「家庭学習の重要性」を知らせたり、小中で連携して同時期に「パワーアップ週間」を設定したりする対応をすでに実施しているが、さらに家庭学習の大切さの理解を深め、取組みを広めていきたい。

(3) あいさつについて

ここ2年課題として上っている「あいさつ」について、それぞれのとらえ方の違いがみえる。児童生徒「自分からあいさつをしていますか」の肯定的評価は90%→90%(A:58% B:32%)となっている。保護者のそれは、80%→86%(A:44% B:42%)となっている。児童生徒・保護者は高い肯定的評価であるが、教職員はさらなる改善を望み取組を続けている。

毎日繰り返し声をかけ、あいさつすることで改善されつつあるので、これからも継続して声掛けをしこちら側(大人)からあいさつしていきたい。児童会とタイアップした取組(3学期予定)や中学校・家庭・地域との連携も探りながら、今後も継続的に取り組んでいきたい。

(4) ICTについて

保護者アンケートの「お子さんは携帯を持っていますか」の問いに対して、「はい」が26%→47%とほぼ倍増している。この傾向は、時代の趨勢で致し方ないところであろう。GIGAスクールで児童生徒各自に一台のタブレットが配布され活用されている現状や小学校でも、LineやTikTok、ゲーム機の通信機能に関わる様々な問題やトラブルが発生している状況を鑑みると、「情報モラル教育」は待ったなしの状態である。各クラス学年で発達段階に応じた指導をしたり、高学年を中心に外部講師を招いての学習会を実施したりしている。最先端のツールの良さや危険性を併せて学習し、上手に使いこなしていく力こそが、今の子ども達には求められている。児童生徒、保護者、教職員で力を合わせ八田地区にあった解決策・利用方法を見出していきたい。